

編集後記

技術部は一昨年(2005)の12月1日に組織を再編成し、より機動的に業務依頼を受けられる体制にいたしました。さらに、昨年(2006)7月1日には再度組織を再編成し、技術長、技術長補佐も学長発令され、自立した組織として全学的に認知されました。

技術発表会は今回で15回目となりました。「10年一昔」といいますが、テンポが速い現在においては、15年は大昔かもしれません。技術発表会の最初は、各人の仕事の紹介から始まりました。当時は各人が「蛸壺」的にそれぞれの研究室に属し、技術職員相互も他人が何をしているのかも知りませんでした。ただ、その当時も、共同作業を行っていた実験実習工場だけは別でした。

技術職員に求められている業務の多くは、各研究室においての多様な実験研究に有ることと、技術業務を行う際の装置や機器等が共通に確保されていないので、居室は現状のままで、専門分野別にグループ化して所属研究室の業務とは別に、概ね半分の時間を他からの業務依頼に対応していくスタイルをとっています。過渡的な組織状態かもしれませんが、当面の最良な方法だと思います。ただ、所属部局の業務依頼だけでなく技術部の組織的技術力が全学的に必要であれば、その力を積極的に投入していく気概を持っています。現在行っている全学を視野にした作業環境測定業務も、その延長線上で行っています。19年度は電離放射線の測定の準備を行い、平成20年度からは電離放射線も含めたすべての作業環境測定業務を技術部で行うこととなります。組織は、腐れば厄介物になりますが有機的に機能すれば足し算でなくかけ算の力を発揮します。こうした気概で努力いたしますので、技術部への業務依頼をどんどんしていただくようお願いいたします。

今回の発表では、名古屋工業大学と静岡大学工学部から各1件、学内では、大学院生物資源学部研究科、生命科学研究支援センター等、工学部以外の3件の発表を含め、15件の発表がありました。

最後に、特別講演を快く引き受けてくださった中村修平教授、他大学からの発表者として、名古屋工業大学の服部博文さん、静岡大学工学部の増田健二さん、さらに他学部を含め発表していただいた技術職員の方々に対して、紙面をお借りして、厚くお礼申し上げます。

2007年1月 市川貴之

技術部研修委員会委員長	市川	貴之
副委員長	前田	浩二
委員	山本	好弘
委員	中村	昇二
委員	龍田	雅夫
委員	岩田	剛
委員	新美	治利

技術報告集	第15号	(2007年1月発行)
編集・発行	三重大学工学部・工学研究科技術部 研修委員会	
住所	〒514-8507 津市栗真町屋町1577	
	三重大学工学部	
	電話	059(231)9785
	FAX	050(231)9786
技術部ホームページ	http://www.tech.eng.mie-u.ac.jp/tech/	